



特 集

宇宙と繋がるトプコンの光と技術

株主通信

第118期

グループ総合力
を結集し、
企業体質・企業
風土の改革を
進めています

代表取締役社長

横倉 隆



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

ここに、株式会社トプコンおよびトプコングループの平成22年4月1日から平成22年9月30日に至る第118期中間期の営業の概況をご報告申し上げます。

当中間期における経済環境は、米国では景気の最悪期を脱し回復基調で推移しておりますが、欧州では、依然として厳しい状況が続いています。一方、中国等の新興国群では、各国で状況は異なるものの景気は拡大基調で推移しています。日本においては、企業業績の改善等、景気の回復がみられ始めてはいますが、一方で、円高の進行等の不安材料を抱え、先行きが不透明な状況となっています。

Best Solution to the World

このような経済環境にあって、当社グループは、「現在の変動期を飛躍の好機ととらえ、グループ総合力を結集し、『利益ある持続的成長』に向けて再発進する」ことを目標に掲げ、成長戦略を推進し得る企業体質・企業風土への改革を進めてまいりました。

こうした中で、当中間期の連結業績は、次のようになりました。

売上高は、前年同期と比べると、欧州においてユーロ安による為替の影響を受け悪化いたしました。米国でポジショニングビジネスを中心に、また国内や中国・アジアではファインテックビジネスを中心に、好調に推移いたしました。これにより売上高は496億8千8百万円となり、前年同期と比べ14.7%の増加となりました。

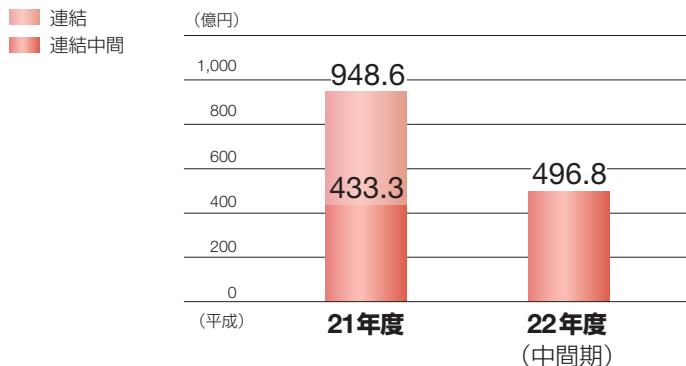
利益面では、この売上高の増加等により、営業利益は1千1百万円(前年同期比18億4千8百万円の増加)、経常利益は△7億9千2百万円(前年同期比15億7千1百万円の増加)の損失、中間純利益は△12億9千5百万円(前年同期比10億7千3百万円の増加)の損失となり、前年同期と比べ改善いたしました。

中間配当につきましては、上記の業績を勘案し、1株当たり2円(前期中間配当2円)と決定させていただきましたので、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

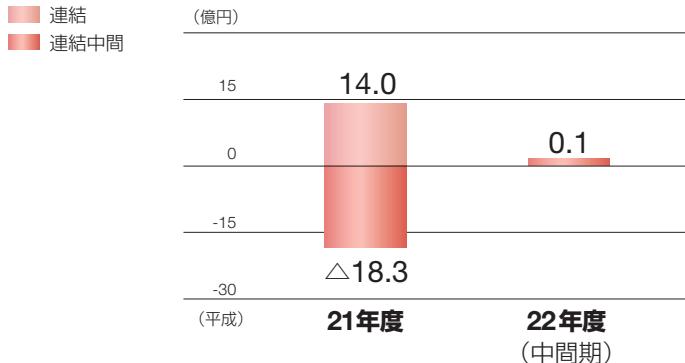
株主の皆様におかれましては、今後ともご理解、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

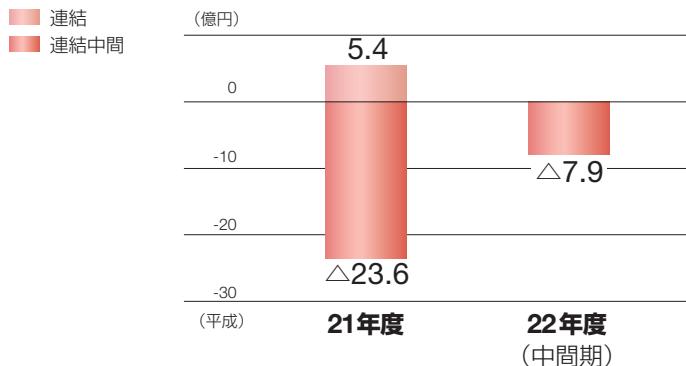
売上高



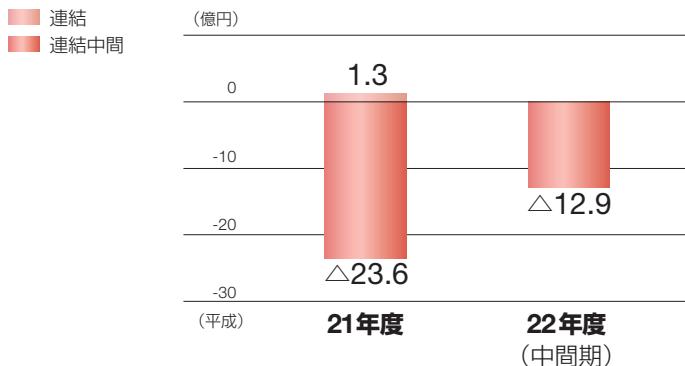
営業利益(△損失)



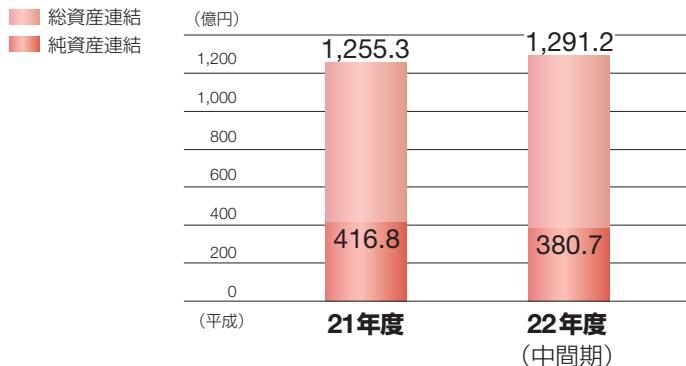
経常利益(△損失)



当期(中期)純利益(△損失)

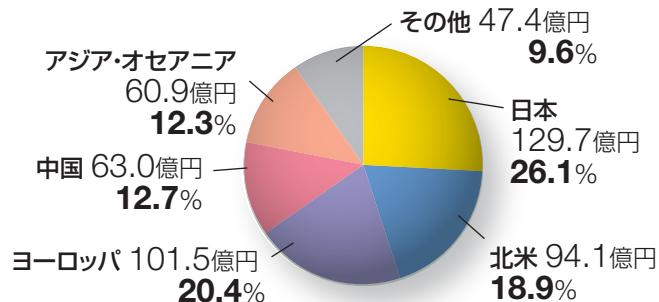


総資産・純資産



平成 22 年度中間期のセグメント情報

仕向地別売上高 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)



Positioning Business

ポジショニング
ビジネス



自動追尾バルスータル
ステーション「QSシリーズ」

Eye Care Business

アイケア
ビジネス



網膜光凝固装置
「PASCAL SLIMLINE」

Finetech Business

ファインテック
ビジネス



ライン向け分光放射計
「SR-LEDH」

売上高・営業利益(中間期)

22年度 売上高
257億6千7百万円
営業利益
1億9百万円



21年度 売上高
229億9千7百万円
営業利益
△11億7千3百万円

市場の環境・特徴

▶市場環境

円高の影響を受けたものの、米国市場が伸長。成長が続く精密農業・計測市場への対応、アジア・中東への積極的な市場拡大、新製品の上市による押し上げを図る。

▶事業の特徴

常に世界をリードする従来の製品に加え、3Dスキャナーや車載型3Dモバイルマッピングシステムへも注力、世界のポジショニング機器の潮流を牽引。

22年度 売上高
145億3千3百万円
営業利益
△3億1千6百万円



21年度 売上高
149億2千9百万円
営業利益
3億2千6百万円

▶市場環境

米国市場では回復基調に推移したが、円高の影響により若干の低迷。伸長が続く中国・インドの健康診断市場の出現に期待。

▶事業の特徴

システムソリューションや先端眼科医療機器の開発、糖尿病スクリーニングなど、予防医学分野へ注力。治療器分野へ事業領域を拡大。

22年度 売上高
93億8千7百万円
営業利益
2億1千8百万円



21年度 売上高
54億1千1百万円
営業利益
△9億9千万円

▶市場環境

プロジェクター・露光装置・チップ外観検査装置が大きく伸長。韓国・台湾・中国の大型設備投資が再開。

▶事業の特徴

電子製品の根幹をなす半導体の検査に欠かせない存在。フラットパネルディスプレイの画面評価にかかわる光計測器でも高い評価を得る。

「はやぶさ君」

2003年5月9日に打ち上げられたJAXA(宇宙航空研究開発機構)の小惑星探査機「はやぶさ」は、2010年6月13日にオーストラリアのウーメラ砂漠の上空で大気圏に突入し、7年間約60億キロという果てしなく長い旅を終え、地球へ帰還しました。

月以外の天体に着陸した探査機の帰還は世界初の快挙であり、「はやぶさ」が持ち帰ったカプセル展示会への来場者は帰還後わずか2カ月足らずで10万人を超えました。また幾多の試練を乗り越えた「はやぶさ」は、その勇姿に共感する人々により「はやぶさ君」と親しまれ、大人気となりました。

「はやぶさ」の目として活躍

「はやぶさ」には様々な計測機器が搭載されています。自立航法を可能にするセンサ、惑星を観測するためのカメラやレーザ高度計、X線計測装置、赤外線観測装置などです。トプコンは「はやぶさ」の目に相当するセンサ用光学系の設計・開発を行い、6種類の光学系が「はやぶさ」に搭載されました。小惑星イトカワ



「はやぶさ」が撮影した地球



地球スイングバイのイメージ



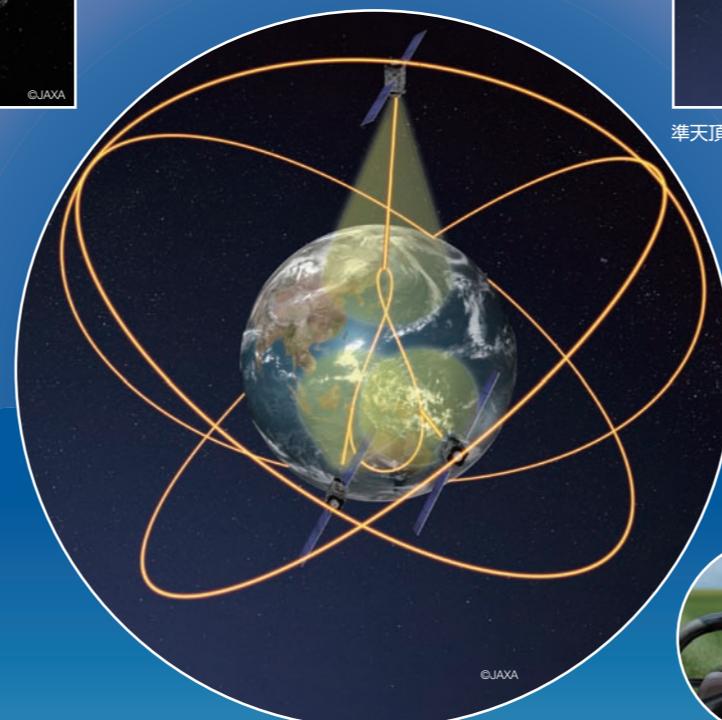
最終降下フェーズのイメージ



準天頂衛星初号機「みちびき」



「はやぶさ」打ち上げ時



準天頂衛星の軌道



注目が高まる「精密農業」

精密農業用
エントリーモデル

との距離を精密に測定し、「はやぶさ」が安全な着陸を行うための「レーザレンジファインダ(LRF)光学系」の設計・開発などを通じて、トプコンは「はやぶさ」のミッションに貢献しました。

準天頂衛星初号機「みちびき」の打ち上げ

「はやぶさ」が地球帰還を果たしてから約3カ月後の2010年9月11日に、JAXAの準天頂衛星初号機「みちびき」が搭載されたH2Aロケットが打ち上げられました。日本には山間部やビルの谷間などが多く、GPS衛星の電波が受信しづらい地域や場所が存在します。「みちびき」は、このようなところにおいても正確な測位を計測できるよう、日本の天頂付近に配置され、GPS衛星などを補完する役割を果たします。今後予定されている2号機および3号機が打ち上げられ、かつ上空が開けてさえいれば日本全国いつでも準天頂衛星の電波を受信でき、高精度の衛星測位サービスを提供できる可能性が広がります。これにより、交通管制、測量分野、カーナビやマンナビ、そして犯罪防止、救難などの幅広い分野における利用が可能になります。

トプコンは、今後実施される民間の利用実証実験に参画し、「みちびき」の農業・土木分野向けの製品への応用の可能性を検証してまいります。

将来に向けて

トプコンは地球にとどまらず、宇宙ともつながる技術で事業活動を展開しています。今後も人々に夢と感動を与える事業や個人の生活の安全、安心に寄与する事業に取り組んでまいります。

宇宙と繋がるトプコンの光と技術

会社概要



商号	株式会社トプコン(TOPCON CORPORATION)
本社・工場	東京都板橋区蓮沼町75番1号
電話	03-3966-3141(番号案内)
ホームページアドレス	http://www.topcon.co.jp/
設立	1932年(昭和7年)9月1日
資本金	10,297百万円(平成22年9月30日現在)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
社員数	1,166名(平成22年9月30日現在)

株主メモ

発行可能株式総数	160,000,000株(平成22年9月30日現在)
発行済株式総数	92,688,342株(平成22年9月30日現在)
株主数	20,469名(平成22年9月30日現在)
株主優待制度(年2回)	メガネレンズおよびフレーム50%割引券 (1,000株以上)(愛眼株式会社の全国各店舗で使用可能)
事業年度の末日	3月31日
配当金支払株主確定日	期末配当3月31日 中間配当9月30日
定時株主総会	6月
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は、中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。



ミックス品

FSC認証林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-1546
© 1996 Forest Stewardship Council

